

片山は書籍の注文をするために、書店に電話を入れた。

「はい、高田書店でございます」

「すみません、本の注文をお願いしたいんですけど」

「かしこまりました。それでは書籍名と出版社名をお願いします」

「本の名前が『記憶力向上二十の方法』、出版者は小畑実業出版社です」

「著者名はおわかりになりますか？」

「北川武史です」

「お調べ致しますので少々お待ちください・・・お待ち致しました。ただ今お調べしましたが、北川武史という著者名で『記憶力向上二十の方法』という本は出版されていないようです。柿本辰夫という名前でしたら登録されているようですが、お名前に間違いはありませんか？」

「すみません！ 著者名は柿本辰夫になります」

「はい、かしこまりました。そうしますと申し訳ございませんが、こちらの本は在庫切れとなっておりますので、お取り寄せとなりますが」

「取り寄せてもらうとしたら、日数はどれ位かかりますか？」

「早ければ今週の金曜日、遅ければ来週の火曜日までお待ちいただくようになってまいります」

「わかりました。では注文をお願いします」

「かしこまりました。それでは、お客様のお名前とご連絡先のお電話番号をお願いします」

「片山国夫(登美子)です。連絡先は090-951-5539です」

「確認させていただきます。お名前が片山国夫(登美子)様、お電話番号が090-951-5539ですね。ご注文は小畑実業出版社の『記憶力向上二十の方法』こちらの代金が2990円となりますがよろしいでしょうか？」

「はい、結構です」

「それでは、本が入荷出来次第ご連絡させていただきます。担当の久米が承りました。ありがとうございます」

数日後、片山の携帯電話に高田書店から電話が入った。

「はい、片山です」

「こちら高田書店と申しますが、片山国夫(登美子)様でいらっしゃいますか？」

「はい、片山です」

「こちら高田書店でございます。先日ご注文いただきました書籍が入荷されましたので、片山様のご都合の良い日に五階のサービスカウンターまで取りにお出度ください」

「はい、わかりました。」

「お待ちしております。失礼致します」